

# IMF サーベイ

2014年 IMF-世界銀行年次総会

## 新たなモメンタムにより、 世界経済は不本意な成長の克服を

2014年10月2日



米国・シアトルの高速道路：効率的なインフラへの公共投資が成長と雇用の後押しに（写真：Spaces Blend Images/Newscom）

- 世界経済は、脆弱でばらつきのあるリスクを抱えた回復を克服しなければならない
- 不十分な成長の押し上げには、政策のモメンタムと多国間的措置が不可欠
- インフラ投資が、雇用と成長の強力な後押し要因に

国際通貨基金（IMF）のクリスティーヌ・ラガルド専務理事は、期待未満の経済回復を克服するために、より大胆な政策措置を採り新たなモメンタム（勢い）を世界経済に注入することが可能だと述べた。

来週の IMF・世界銀行の年次総会に先立ちワシントンで行ったスピーチでラガルド氏は、IMFの今日の主要な役割は、世界経済がギアをシフトし脆弱でばらつきがあり様々なリスクを抱えた経済回復を克服するために支援することだと述べた。

10月2日、ジョージタウン大学のエドモンド A. ウォルシュ外交学院に集まった聴衆を前に、同氏は、世界経済は重大な局面にあると述べた。「たしかに、回復軌道にあるが周知のとおり、そして我々が実際に感じるように、成長と雇用の水準は全く適当ではない」

世界はより高い水準を目指しより一層の努力をすべきだと述べたラガルド氏は「未来に覆いかぶさる『新たな不十分な状況』を克服することができる『新たなモメンタム（勢い）』を注入するため、より大胆な政策が必要なことを意味する」と続けた。

毎年開かれる IMF と世界銀行グループの[年次総会](#)には、各国の中央銀行総裁、財務・開発大臣、民間部門の幹部、学界の代表など約1万人が一堂に会し、世界経済の見通し、国際金融の安定性、貧困削減、経済開発、援助効果の向上といった世界的な問題について協議する。

## 弱い成長、緩慢な回復

金融危機の発生から6年が経過したが、世界経済は引き続き弱く2015年の改善は緩慢だとの見通しをラガルド専務理事は示した。先進国・地域のなかでも、回復はアメリカで最も力強く、日本では緩やかで、ユーロ圏がもっとも弱いと考えられている。

アジア、特に中国が先導することで、引き続き新興市場及び途上国・地域が世界の経済活動を動かしていくことになるだろう。しかし彼らについても、成長ペースは減速する可能性が高くなっている。

サブサハラ・アフリカを含む低所得途上国の経済見通しは上昇しているが、一部の国では債務が蓄積しており、これを監視する必要がある。中東では、困難な経済の移行と、緊張が続く社会的・政治的衝突が見通しを覆っている。

ラガルド氏は、世界経済は成長が不十分な水準から抜け出せなくなる、すなわち低成長の長期化のリスクを抱えていると述べた。「もし人々が明日の潜在成長力が低下すると予測するとしたら、今日の投資や消費を控えるだろう。この動きが、特にやはり高失業率と低インフレに取り組んでいる先進国・地域で、回復の大きな足かせとなりかねない」

### 「影の部分」への移行

またラガルド専務理事は、金融部門の行き過ぎが、特に先進国・地域で蓄積されつつあるのではないかと懸念を示した。資産価格は史上最高値となっており、スプレッドとボラティリティは史上最低水準にある。

また、新たな市場及び流動性リスクの金融の世界の「影」への移動も懸念される。つまり、これは一部の国で急速に成長している、規制が相対的に緩いノンバンクセクターの一部のことを指す。加えて、ウクライナ、中東、そしてエボラ出血熱が拡大している国々の状況が新たな地政学的リスクとなっている。

### 新たなモメンタムを生み出す

こうした事象を前に、世界経済は、標準未満の成長で何とかやっていくという、不十分な成長に陥ることも、また大胆な政策を採り成長を加速化させ雇用を増やし「新たなモメンタム」に到達するなどより良い道筋を選ぶこともできると、ラガルド氏は述べた。

経済の需要サイド・供給サイドともに活用し、政策のツールキットのバランスを改善する必要があるだろう。ラガルド氏は、危機の間、金融政策は需要を支えるという重要な役割を果たしてきたとの認識を示した。金融政策は他の政策からの一層の支援を必要としている。なかでも、

- 成長志向で雇用のプラスになる財政政策。たとえば、脱税対策やより効率的な公的支出への支援、給与税率の引き下げなど。
- 生産性や競争力、雇用を押し上げる構造改革。研修プログラム、女性の労働力参加の促進、製品市場・サービス市場の開放、エネルギー助成金の改革などを通して実施。
- インフラへの効率的な公共投資の拡大。成長と雇用の強力な後押し要因になり得る。

それでも、多くの先進国・地域ではこうした政策の効果は、経済への与信フローを改善しなければ限られたものとなるだろう。ラガルド専務理事は「銀行や民間部門が効果的にその債務負担に対処し、そのバランスシートに余力を与え再び与信が流れだし経済の歯車に潤滑油を注ぐことができるような**破たん処理制度**を構築する必要がある」と指摘した。

### 世界を活性化させるには

しかし、「不十分な」成長とこの克服に必要な政策の「モメンタム」を踏まえると、こうした取り組みにおける世界レベルでの連携の活性化には、多国間主義と IMF の役割が含まれることになると、ラガルド氏は述べた。

2014 年は IMF の誕生 70 周年であると述べたラガルド氏は、今般の金融危機を含めその歴史を通し IMF は協力の場であったと語った。今般の危機の間の世界の経済極力の具体例が挙げられた。

「おそらく最も顕著な例が、G20 各国によるものだろう。IMF への追加的支援を含め信認を支え国際金融システムを守るために連携してきた」。同氏は、G20 全体の成長率を 2018 年までに対 GDP 比で 2% 引き上げるという、中期的成長率を押し上げるための戦略構築でさらに前進したとの先の発表に言及し、これで成長と雇用の拡大を期待することができると付け加えた。

「これまで 70 年間、我々は、経済の副次的影響下にある加盟国を支援することで安定性を維持し、世界の問題に対する協調的な解決策を促すなど、我々の『存在する

理由』に答えるため変化を続けてきた」と述べたラガルド氏は「これは皆のためでありそして次世代のためでもある」と続けた。

IMF 及び世界銀行の 188 加盟国の政府関係者が、2014 年年次総会に出席する。公式セッションに関連して、先進及び新興市場の [20 カ国・地域](#)グループや、コモンウェルスの財務相、[先進 7 カ国](#)を含めた様々な公式グループの会合も多く開かれる。同時に、市民社会、学界、民間セクターとの会合も開かれる予定である。

**関連リンク：**

[スピーチを読む](#)

[年次総会ウェブページ](#)

[インフラプッシュの時](#)

[ビデオ：新たな道、生産の拡大](#)